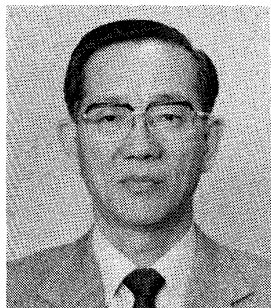


渡 辺 三 郎 賞

愛知製鋼(株)取締役副社長
新 井 宏 一 君

特殊鋼製造技術と工場管理体制の確立



君は昭和 21 年 9 月名古屋帝国大学工学部を卒業、同年 10 月愛知製鋼(株)に入社し、42 年 3 月刈谷工場長、44 年 3 月知多工場長を歴任。49 年 2 月取締役、55 年 3 月常務取締役、59 年 3 月専務取締役、60 年 3 月取締役副社長に就任、現在に至っている。

この間君は、特殊鋼製造の第一線にあつて製鋼、圧延、精整の分野において新プロセス設備の合理化に力を入れ、高品質を狙う高能率生産管理体制の確立に尽力した。

1. 高品質を狙う高能率製鋼設備の建設と操業技術の確立

45 年知多工場長時代に当時の先端技術であつた UHP 電気炉 50T 炉 2 基を建設し、脱ガス装置とあいまつて高品質を狙う高能率製鋼、操業技術の基礎を築いた。それらの技術発展の結晶として 56 年常務取締役の時代に大型設備投資の設計、建設操業のリーダーとして従事し、我国で初めて 80T 電炉-VSC-LF-RH-CC の複合製鋼プロセスを建設し高度な操業技術を確立した。その後複合プロセスを活用した新製品開発に尽力し、高品質冷鍛用鋼、高寿命高品質軸受鋼等の優れた製品を多々開発した。

2. 高能率な工場運営における管理体制の確立

イ) 知多工場長、鍛造部長の長年にわたる生産部門の責任者として 42 年に導入した TQC の普及と実践に尽力し、QC サークル、創意工夫活動の育成に注力し、自社の TQC 活動の基礎づくりに大きな貢献をなした。また 57 年からはスウェーデンの特殊鋼メーカー数社に数多くのセミナーをもち、TQC の普及に尽力している。

ロ) さらに 53 年には TPM 全社推進福委員長として綿密な計画と推進によつて生産保全面に画期的な管理体制を確立し、55 年に日本プラントエンジニア協会より PM 優秀事業場賞を受賞した。

以上の事実から高品質を狙う特殊鋼製造技術と管理体制の充実を計り生産管理システム、製鋼—圧延—精整工程の自動化、合理化に努め高能率生産体制を確立した。

野 呂 賞

九州大学名誉教授
新日本製鉄(株)顧問
川 合 保 治 君

協会活動とくに鉄鋼製錬部門の研究・

講座・国際交流活動における貢献



君は昭和 19 年東北帝国大学工学部金属工学科を卒業後、大学院特別研究生となり、昭和 23 年同大学選鉱製錬研究所助教授となり昭和 38 年には九州大学工学部教授に就任、昭和 60 年 3 月退官した。以降新日本製鉄株式会社顧問となり現在に至っている。

この間一貫して製鋼製錬反応の速度論的研究ならびに高温融体の物性に関する研究に従事し、多くの先駆的成果をあげた。この業績は高く評価され、既に渡辺義介記念賞、西山記念賞ならびに西山賞を受賞している。

君は研究と教育に専念するかたわら日本鉄鋼協会の活動に大きい貢献をした。昭和 44 年から昭和 61 年にわたる間、協会理事に 5 期(通計 10 年間)選任され、とくに昭和 59 年 4 月からの 2 年間は副会長として協会事業の充実と協会創立 70 周年記念行事の立案実行に尽力した。

この間、各種の協会事業に参加協力しており、その幾つか下記に示す。

昭和 50 年に、若手技術者の再教育の場として開設された鉄鋼工学セミナーには第 1 回から第 4 回まで講師を勤め、セミナーが軌道に乗つて定着するのに協力した。また昭和 40 年発足した技術講座は昭和 43 年西山記念技術講座と衣替えし、今日まで研究者、技術者の学習の場として高い評価を受けているが、同講座にも 4 回にわたつて講師を勤め、その発展に協力した。

協会の国際学術交流活動についても、昭和 45 年本会主催で開催された第 1 回鉄鋼科学技術国際会議には招待論文を発表し、昭和 48 年開催された第 3 回真空冶金国際会議では実行委員として会議の運営に当たつた。また幾つかの 2 国間シンポジウムに参加するとともに、日ソ製鋼物理化学シンポジウムにおいては、第 9 回(昭和 58 年モスクワ)、第 10 回(昭和 60 年東京)シンポジウムの日本代表を務め、本シンポジウムの有終の美を飾つた。

さらには、昭和 40 年に発足した鉄鋼基礎共同研究会および昭和 52 年に発足した特定基礎研究会の関係部会(溶鋼溶滓部会、特殊精錬部会、スラグの有効利用に関する基礎研究部会)に参加し、部会活動の充実のために尽力した。

君はこのような本会における活動のみならず、日本学術振興会冶金物質の高温物性第 140 委員会の委員長を昭和 48 年より現在まで務めるなど、広く鉄鋼技術の発展に尽力しており、その貢献は高く評価される。